

社内の意識改革から地域、世界を変えていく

リサイクル

環境保全

地産地消

普及・啓発

喜多機械産業株式会社

代表者：代表取締役 仲田 優晴
所在地：徳島県徳島市庄町3丁目16番地
設立：昭和36年4月13日
従業員数：243名(令和元年8月末現在)
事業内容：土木建設建築関連商品の販売、レンタル、修理 ほか

○事業・活動の概要

建設機械・資材の複合専門商社として、先端技術の建設機械・資材の販売、レンタル、修理、環境保全のための施設・設備・土木工事工法を提供している喜多機械産業株式会社では、社内外で様々なエシカル消費に取り組んでいる。

○エシカル消費について

同社でエシカル消費を推進する喜多常務取締役は、大学進学を機に地元徳島を離れ、外から徳島を見るようになり、徳島の素晴らしさを実感していた。その後、サーフィンを始め、きれいな海、自然を守りたいと思うようになり、ゴミ拾いなどの活動を行っていた。また、地元の企業に貢献したいと、サーフィン用具も積極的に徳島のサーフショップで購入していた。

大学卒業後徳島に戻り、社業の傍ら活動していたボランティア団体の例会で、同会員である四国大学の加渡いづみ教授から、エシカル消費についての講話を聞く機会があった。人や環境に配慮し、自分の住んでいる地域のもを消費するというエシカル消費の考え方は、自身のこれまでの取組に通じ、地元徳島を盛り上げるために、社内でエシカル消費を浸透させようと思ったことが取組のきっかけとなった。

○エシカルの取組

同社では「私のエシカル消費リレー」として、社員が各自で行っているエシカル消費に関する取組について、毎回交代して原稿を作成し、社内報に掲載している。エシカル消費というと、何をすればよいのか、どんなことがエシカル消費なのかと、難しく考えてしまいがちだが、それぞれの取組を振り返り共有する機会を通して、社員一人一人に自分のこととして、エシカル消費を考えてもらおうと始まったものである。先日担当した社員は「趣味の釣りでたくさん釣れても、自分がその日食べられる分だけを持ち帰り地元の醤油で頂くようにしている」ということを記しており、それも一つのエシカル消費の取組であると感じたと、辻専務取締役は話す。

また、売上げの5%をボルネオ保全トラストジャパンに寄付する自動販売機を県内の11拠点に設置している。ポテトチップスなどに使用される「パーム(アブラヤシ)油」の

最大生産地であるボルネオでは、パーム油の需要増加による農園の拡大で、絶滅の危機に瀕した野生動物の生息地である熱帯雨林が急速に減少している。この問題を知り、熱帯雨林の土地を買い戻して森を再生するプロジェクトを応援したいと思ったことがきっかけとなった。「日ごろから自分の消費生活を世界と結び付けて考えることは難しいが、『消費を行うということは何かを失っているということ』を意識し、日々の消費を通して、どう世界に関われるか、世界の現状やモノが生産される背景をいかに知ってもらうかということが重要だ」と喜多常務取締役は話す。

ほかにも、社内外の各種会合での3010運動の実施・推進や、再生紙を利用したカレンダーの採用、環境に配慮した素材を使った制服の採用、廃棄物の種類を理解した排出量の削減、適切な処理などに取り組んでいる。

地域社会との関わりも大切にしており、同社が行う機械の展示会では、藍染めの体験や地元農家の農産物の販売の場を提供している。

○今後の取組

現在同社では、高齢者、移住者向けに初期投資を抑えて農業ができるように農業機械のレンタルを行ったり、同社の水処理の技術をいかし、JICAの海外事業における東南アジアでの支援などを行っている。今後は、取り扱う建設機械の関節部に使用する潤滑油を植物由来のものにすることを検討している。潤滑油は石油由来のものが主流であり、植物由来のものは高額であるため、全てをすぐに変えることは難しい。それでも、少しずつ取り組み、特に水辺で建設機械を使う顧客には、水質保全のため、積極的に植物由来の潤滑油を提案していく考えである。

「エシカル消費の取組は、コスト的にもできることとできないことがあるが、消費の仕方によって世の中を変えていけるという意識を一人一人が持つこと、今までの行動全てを変えるに至らなくても、10回のうちの1回でも意識して消費し、それを継続することが重要」という考えの下、同社は今後もエシカル消費の普及、推進に取り組むとしている。



公表日：令和元年10月23日 取材：令和元年8月
外部リンク：<https://kitakikai.co.jp/>